町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル（笑顔のままで）です。

Stay Smile ステイ・スマイル

Stay Smile 農業の未来へ向かって ～新たな力～

町新規就農支援事業

◆篠原 義浩さん（立沢）

富士見町の皆様、こんにちは。私は平成29年から立沢でトマト栽培を開始しました。農家になってもうすぐ１年が経とうとしています。出身は大阪。都会に生まれながら山や川で遊ぶことが好きで、大学生の頃にマウンテンバイクに乗り始めました。富士見町には日本一のマウンテンバイクコースである富士見パノラマがあり、自転車に乗る人にはとても有名な町です。またすそ野が広い八ヶ岳は、なだらかに広がる森林域があり、多くの動物や野鳥に出会うことができます。そういった豊かな自然に魅了されて富士見町で活動することを決めました。

さて、農業を始めたきっかけですが、自然の中でできる職業に就きたいという思いと、自分のこだわりを反映できるものづくりがしたいという思いの掛け合わせと言えます。高原の涼しい気候を活かして、甘く、旨いトマトを作ることを目標にして栽培にチャレンジしています。一年間、農家として過ごしてみて、お客様から味について褒めて頂ける時が一番やりがいを感じました。

まだまだ畑の状態をコントロールできていない事が今後の課題と感じています。難しい問題は頻繁に起こりますが、アドバイスをくださる先輩農家の方々や新規就農者を暖かく迎え入れて頂けるこの町の皆様に感謝しております。「富士見町のトマトっておいしいね！」と言ってもらえる様、農業をしていきたいと思います。

Stay Smile いざその時 ～災害から身を守る～

総務課 防災危機管理係　☎62-9326

電柱取付型（スポンサー付）避難場所誘導看板の設置を推進します

【看板設置推進の趣旨】

富士見町は東海地震防災対策強化地域に加え、平成26年３月に、南海トラフ地震防災対策推進地域にも指定されており、糸魚川静岡構造線による地震も含め、大規模な地震の発生が懸念されています。

また、近年は、異常気象により全国各地において、局地的な豪雨や超大型台風等による河川の氾濫や土砂災害等も多発しており、町民の安全安心を確保するための避難体制の整備は、重要な課題となっています。

そこで、看板を設置し、地元住民の方はもとより観光客等の来訪者の方にも、災害発生時における地域の避難場所を周知することで、避難体制の整備推進につながるものと期待しています。

【看板設置の方法】

町内事業所の皆様に電柱取付型避難場所誘導看板（有償）のスポンサー企業となっていただく事により、電柱への看板設置を実施します。

電柱取付型避難所誘導看板の設置については、中部電力グループの中電興業株式会社が事業所等を訪問し、趣旨や看板の内容説明等をさせて頂きます。

事業所の皆様には、この取り組みにご理解とご協力をよろしくお願いします。

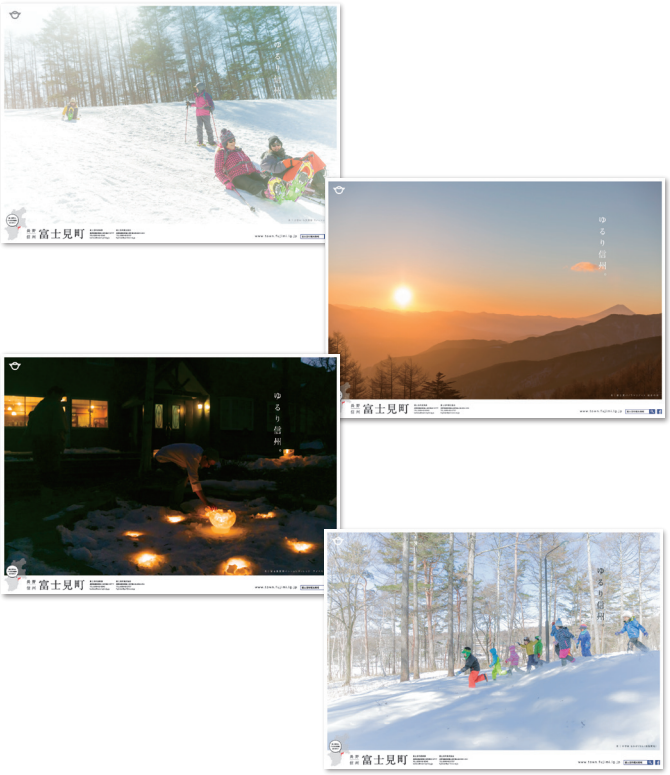
●看板設置相談窓口　中電興業（株）松本営業所　☎0263-35-2645

Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です！

地域おこし協力隊の高橋知子です。移住して、１年が経過しました。観光係でがんばっております。一年富士見町で生活をして、富士見町の良さを私なりに発見できたように思います。冬の路面凍結は怖いですが（笑）、この町はとても優しい。山も景色も人も、カツカツしていなく、どれをとっても“ゆるり”としている印象です。この町に移住できて良かった！

どのようにしてこの町の良さをＰＲすれば良いのか、ニュアンスを伝えるのは簡単なことではないように思います。観光ＰＲって本当に難しい！何かのきっかけで、瞬く間に知名度が上がってしまうこともありますしね。自分ができることをやろうと再度しめ縄を締め直しているところです。頼りになる仲間（観光係）の知識や情報に、移住者から感じる富士見町をプラスしていきたいと思います。

ゆるりとした富士見町の空気感やあたたかさを写真や動画で表現できるのが、私のできることです。もう冬は始まってしまっていますが、「ゆるり信州。富士見町」をキャッチコピーとしたＰＲ活動が始まります。町の皆さんからのご協力やご相談をさせていただくこともあるかと思います。どうぞお力をかしてください、よろしくお願い致します！



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク　☎62-5505

野外保育への関心

昨年は、野外保育（自然保育、森のようちえんと同義）への関心が一気に高まった年でした。

長野県は、幼児が自然の中で主体的に過ごす経験が、子どもの思考力、想像力、コミュニケーション力、行動力、忍耐力、運動能力の基盤を作るという考えのもと、幼児教育や保育の場への自然体験活動の導入を全国に先がけて推進しています。その取り組みが今、全国の自治体から注目を集め、長野県の野外保育園への見学、視察が増えています。

ふじみ子育てネットワークが運営する「野外保育森のいえ“ぽっち”」にも、多くの方が視察、見学、体験に来られました。小さな子を持つ保護者の見学、町内外の民生児童委員の視察などに加え、目立ったのが行政関係者の視察と幼児教育・保育を学ぶ学生の実習希望の多さでした。遠くは北海道から、市議が来られた自治体もありました。特に秋以降、月によっては毎週のように受け入れていました。

日本の若者の自己肯定感の低さ、未来へ希望が持てない割合の多さと、幼児期の教育・保育の質の関連が研究者や実践者に指摘され始めてから随分と年数も経っています。そんな中、「子ども主体の自然体験」を軸に据え子どもの育ちを考える野外保育に賛同する人も増えてきました。野原や森に子どもたちをただ放りだし、野生のままに育てていると誤解を受けやすい野外保育ですが、実は、「自然体験」「大人（保育者）の子どもへの関わり方」「リスクマネジメント」など保育を行うにあたって大切なテーマを深く掘り下げ、しっかりと計画を立てて取り組んでいます。ただし子どもをその通りに動かす計画ではなく、一人ひとりの子どもの状態や気質、力に柔軟に寄り添い、その子なりのペースでの成長を見込める計画です。多くの見学者、実習生には、そういった野外保育の考え方やそこで過ごす子どもたちの育ちを実際に見ることで実感していただくことができています。